

こども通信 せなひめ物語①

作成：静岡古文書研究会

瀬名には、戦国時代 今川の瀬名氏が住んでいました。三代目氏俊の 弟 氏広は、養子（他人のこどもを自分のこどもにすること）となって、関口刑部親永と名のり、井伊谷御前を妻としました。

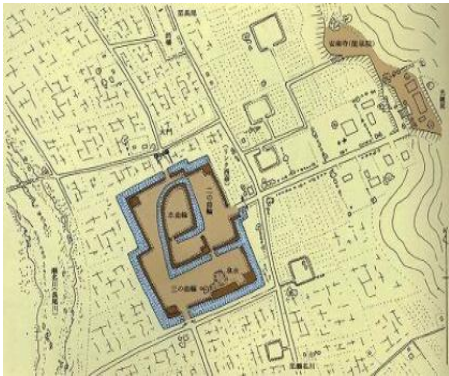
天文 11 年（1542 年：今から 480 年前）瀬名 館（現在のリンク西奈のところに大屋敷、大門の名

が残っている）で女の子が生まれました。生まれた地にちなんで「瀬名」とよばれました。駿府の

今川 館には、岡崎 城主 松平 広忠の長男「竹千代」（のちの家康）が人質（敵方などに対して、絶対

に「裏切り」をさせないために、その「証拠」としてさし出される人）として預けられていました。

瀬名館



竹千代と瀬名



15歳で元服



1572 年竹千代は、15 歳で元服（男子が成人にたったことを示す儀式）して、松平 元信と名のり、

瀬名と結婚しました。1559 年に長男、信康が生まれ、よく年、長女 亀姫が生まれました。1569

年に桶狭間の戦いで、今川義元が織田信長に敗れ、亡くなると、生活は、変ってしました。元信は

岡崎 城にかえり元康と名前をかえ、1571 年に瀬名、信康、亀姫は岡崎に入りました。

桶狭間の戦い



家康



瀬名姫（築山御前）



1572 年に元康は名を、徳川家康とあらめ、今川の 敵 である織田信長と同盟（おなじ行動をとること

をやくそくすること）を結びました。息子の信康と信長の長女、五徳姫との、結婚の話が occurred

ました。瀬名は岡崎 城に行き築山という、屋敷に住み「築山御前」と呼ばれるようになりました。

いえやす せな しろ きたがわ あた いえ こどもたち す のぶやす のぶなが むすめ ごとくひめ
家康は瀬名のために城の北側に新しい家をたて子供達と住ませました。信康は信長の娘の、五徳姫と、
けっこん けっこん ほんたい ごとくひめ ごとくひめ ちちのぶなが てがみ のぶやす しゅうと
結婚することになり、この結婚に反対し、五徳姫につらくあたりました。五徳姫が父信長に、手紙で信康と 姑

への悪口と武田との密通（ひそかにつうじあうこと）を報告。信長がおこって家康に信康と御前を処罰するよ

うに命じました。天正 7年8月29日殺す命令を受けた家臣は、浜松の佐鳴湖にて御前を殺害

（38歳）「殿の命いにより、お命、頂戴」と言って殺害しました。報告を受けた家康は体だけ

大きくて頭のみわらないやつよ。女だから、尼にして、逃がしてやればよいものを、それを

した、殺害者は自分のいたるなさを恥、隠居しました。いっぽう、信康のほうには2名、服部半蔵

は「切腹してください」と告げます。信康は、身に覚えがないため「なぜだ、父に、合わせてくれ」

「それはだめです」と言い、半蔵に首を切るように命じ念仏をとえ、腹を切りました。半蔵は「あ

われで、首を切ることが出来ません」もう一人りが、かわって切りました

享年 21歳



いえやす たけだ どうめい み ぶんしょう ごぜん くび も あづちじょう い たけだ みつづう
家康は、武田との、同盟から見つかった、文章と御前の首を持って安土城へ行き、「武田との密通

は、なかった」として長男、信康を助けようとするが、こんな、作り事まで、用意し、そこま

で申すのなら、「徳川どのの、お好きなよになさるが良い」「好きになさるが良い」と言う事は「信康

を殺さなくて良い」という事もありだと、家康は喜ぶが、そのかわり、私も好きにするよ！と付

け加えられた。この言葉で、殺すしかなかった。徳川家を残すために、決めたのでした。

せな ひめ はな なに ほんとう のぶやす ごとくひめ
瀬名姫の話は、何が本当かは、わかりません信康と五徳姫が、なかが良ければ、こんなことに

ならなかったかもしれません。戦国時代の犠牲者である事には、間違いありません。

その後、瀬名姫、信康を殺した五人は、奇怪な運命をたどることになります。

次回の、こども通信②をお待ちください。！！

こども通信
作成：編集

編集：Copyright by Shizuoka komonjyo Study Circle
静岡古文書研究会 伊久美勝久

TEL 090-6583-2945